

内閣官房及び内閣法制局・内閣府本府入札等監視委員会

第14回会議議事概要

開催日及び場所	第14回会議 平成23年10月7日(金) 内閣府5階特別会議室
委員	委員長 國廣 正 (弁護士) 委員 今井 猛嘉 (法政大学大学院法務研究科教授) 委員 交告 尚史 (東京大学大学院公共政策学連携研究部教授) 委員 小林 麻理 (早稲田大学大学院公共経営研究科教授) 委員 長岡 美奈 (公認会計士)
議事	○平成23年度 第1四半期の契約に係る審議 ○その他

○平成23年度 第1四半期の契約に係る審議	
審議対象期間	平成23年4月1日～平成23年6月30日
対象案件の説明	○対象期間における契約の全体(内閣官房119件・内閣法制局9件・内閣府403件)について事務局から説明 ○審議案件の抽出の考え方について当番委員から説明 抽出にあたっての関心事項 ・落札率の低い案件等について予定価格が適正に積算されているか ・事業が適正に履行されているかどうかを確認する さらに以下の観点から各案件を絞込み
審議抽出案件	3件
【競争入札】 総合評価落札方式	(官)1件 (関心事項) 落札率が非常に低い案件であり、事業が適正に履行できるかどうかを確認する。 契約件名：準天頂衛星システムの事業計画策定に係る調査 契約相手：宇宙技術開発株式会社 契約金額：1,155,000円 契約日：平成23年4月28日 担当部局：内閣官房宇宙開発戦略本部事務局
【競争入札】 最低価格落札方式	(府)1件 (関心事項) 予定価格を積算する際に、提出のあった参考見積額と落札額との差について確認する。 契約件名：地域づくり活性化総合情報サイトの運用等業務 契約相手：株式会社オーエムシー 契約金額：1,036,350円 契約日：平成23年4月1日 担当部局：内閣府地域活性化推進室

<p>【競争入札】 総合評価落札方式</p>	<p>(府) 1件 (関心事項) 技術点が比較的高い にもかかわらず落札 額が低い、この事 業が適正に履行でき るのかどうか確認す る。</p>	<p>契約件名：東日本大震災発生時の帰宅困難者対策の検証及び今後の課題に係る検討業務 契約相手：NKS J リスクマネジメント株式会社 契約金額：4,966,500円 契約日：平成23年6月24日 担当部局：内閣府政策統括官（防災担当）</p>
<p>委員からの意見・質問 それに対する回答等</p>	<p>別紙のとおり</p>	
<p>委員会による意見の 具申又は勧告の内容</p>	<p>なし</p>	

意見・質問	回答
1 準天頂衛星システムの事業計画策定に係る調査	
<p>○この仕事を取っておくことによって、業者側からすると将来の仕事がとりやすくするため、非常に低い価格で損をしてでもとって、次回以降何らかのものに有利になるといような関係はあるのか。</p>	<p>○当方として詳細は関知するところではないが、将来の国の計画に対して、コンサルタント、調査会社として何かしら関連の事業に参加する機会があるという思いで参加しているのではないかと推察している。</p>
<p>○応札した会社にノウハウや経験があるときは、技術点や価格点に反映されるような点数の配分を考えたほうが適正な競争の結果がより反映されるのではないのか。</p>	<p>○一般競争総合評価方式の制度自体が、技術は技術で評価し、価格はそういうノウハウも反映した会社としての価格提示であり、それを総合的に評価するということになってるので、ある意味でノウハウの点については価格というアウトプットで評価せざるを得ない制度なのではないかと理解している。</p>
<p>○この場合は明らかに取りに来ている。公正な競争という観点からすると、そういう価格で取りに来ているところをどのようにみるのか。 ○総合評価の場合、価格点と技術点を総合して判断するということだと思うが、ほかの要素を入れてもいいのか。</p>	<p>○今の制度上は、調査の業務委託に関する入札では、応札価格及び技術等に対する総合評価の得点配分の割合は、応札価格に対する得点配分が全体の三分の一以上となる割合とすることになっており、価格点と技術点で比較考慮して業者を決定する仕組みになっているので、そのルールの中で、会社側は提案しているものと考える。</p>
<p>○もう一つ項目をつくって、発注者側の印象点といったようなある程度裁量がある項目があった方がいいのかなと思う。本件については、完全履行できるかを業者に伺って口頭で約束を取っているとのことだが、そういったものも点数に反映できるような項目があった方がいいような気がする。</p>	<p>○判断するとなると、発注者側の評価に関する説明責任をどう考えるのが課題。 ○今回は、評価は現行の制度を踏まえ実施し、事業の履行責任は個別に確認を行った。</p>
<p>○制度上明らかに赤字でも取りに来るといのは、何らかの別の動機がないと極めて経済非合理的な行為なので、この赤字を取って余りある利益を当然計算していないとおかしな話だ。制度として工夫する必要があるような気がする。</p>	

2 地域づくり活性化総合情報サイトの運用等業務	
○サイトを作る場合、サイトがどれくらい利用され、どれだけ評価され、効果を上げていくのかという効果検証はこの事業に含まれているのか。	○セッション数、ページビュー数、検索キーワードの上位項目やタイトル別のアクセス件数について数字を取っている。
○落札業者が予定価格作成時に提出した見積金額と落札金額が大幅にかい離しているが、企業努力でここまで下げてくれてよかったと評価しているのか、予定価格を立てる時にもう少し低く見積もるべきだったのか。	○複数社が入札の現場に来た時に、契約を取りたいと思えば参考見積もりの時点とは違う価格を入れられたという競争性が反映されたものと思っている。
○複数社から見積もりを取って予定価格を設定し入札を行う方法を取ったときに、どのくらいの入札金額になってくるのかということのデータの積み上げをやるとマーケットのビヘイビアが判るのではないか。	○検討してみる。
○低価格で取った時に発注者としてはそれでもいい成果が得られている、満足だという回答が多いが、適正な価格の中での満足度をどう測るかというのは難しい問題としてあるのではないか。	

3 東日本大震災発生時の帰宅困難者対策の検証及び今後の課題に係る検討業務

<p>○3月11日の東日本大震災の時はいろんな人がいろんな複雑な動きをしているのを見ましたので、あれを調査するということは相当に大変な作業だと思う。技術点が高いというのは調査内容が丁寧に具体的に書いてあるという趣旨なのかもしれないが、それだけの内容を分析してこの金額で業務がきちんと履行できるのかが心配だ。</p>	<p>○落札業者は新宿駅周辺で帰宅困難者対策について熱心に取り組んでいる業者であり、出てきた技術提案書もかなりしっかりした調査項目と調査の進め方を提案してきており、その結果非常に高い技術点になった。また、当該企業としても新宿の帰宅困難者対策をやっていることから、推測だが受注の意欲が非常に高かったものと思われる。</p>
<p>○積算内訳を比較すると、落札業者は人件費、人工のところはずいぶん少ないように思うが、それはノウハウ分があるからこのぐらいの集約的な人工で済むと言う理解か。</p>	<p>○人件費を相当切り込んでおられるようだが、人脈や、どういう点が調査のポイントであるか等、ある程度あらかじめのノウハウを持っていると思われ、そこがコストダウンをしてもなんとかやっていると判断した理由ではないかと思う。</p>
<p>○本件はノウハウを持っているから原価の中にノウハウをつくり込めると言う案件で、凄くそれは納得性が高いと思う。</p>	

○その他

- ・ 委託調査業務に係る契約期間と品質の確保
 - ・ 「国民ID制度等に関する諸外国の事例調査」の概算見積金額と入札金額の乖離
 - ・ 「履行体制証明書」に虚偽の記載があった場合の対応
 - ・ 競り下げ入札の試行結果
 - ・ 随意契約締結時の交渉結果 等
- について事務局から説明